

伝染病は、いつの世も大変

参議院議員
客員相談役 藤井 基之



明治十年といえますから、鹿児島に隠遁していた西郷隆盛が、薩摩藩の不平等族を糾合して西南戦争を起こした年ですが、その年の十二月二十三日、大阪日報という新聞に次のような内容の記事が載ったそうです。「明治医事往来」立川昭二著、新潮社刊参考。

コレラ避病院（隔離病院）は、人の生き胆を取っていると、無知な人に誤解されているが、千葉県安房の国の長狭郡渚村（現在の千葉県鴨川市）で、菱屋という旅館に泊まっていた客がコレラにかかっている疑いがあったため、沼野玄昌という医師を招いて診断してもらったところ、紛れもなくコレラだった。そこで、

他人に伝染させてはならないと、石子山堂というところへ移して治療を加えていたところ、土地の漁師たちが聞きつけて、「その旅人を遠い石子山堂へ連れて行って、生き胆を取るに違いない、憎い奴だ、殺してしまえ」と、十人ほどで竹やりや棒、鋤などを持って押しかけてきた。このため、沼野医師は逃げようとしたが、八方取り囲まれて殺され、加茂川に投げ込まれてしまった。犯人は逮捕されたが、沼野医師が仁術をもって人を助けようとして殺されてしまったことは、誠に残念で悲しむべきことだ。

明治維新によってようやく近代的な医学、医療制度や衛生観念が日本に入っ

きたばかりの頃でしたから、一般国民の間でこのような事件がおこることも避けられなかったのでしょう。コレラは、幕末の一八五八年に長崎から侵入し、江戸だけでも十万人以上が死亡、明治時代にも何回も大流行しました。ですから、コレラは大変恐れられていたことから、こうした悲劇も起こったのです。

さて、それから一三二年経った今日でも、伝染病（今は感染症という方が一般的ですが）は、病気の種類は違いますが、国民の不安を掻き立て、社会的な大きな問題となります。最近では、鳥インフルエンザや、豚インフルエンザなど、新型インフルエンザのパンデミック（インフルエンザの大規模な流行）が大きな問題

となりました。

また、新型インフルエンザ問題が下火になったと思ったら、九月に入って、今度は、東京のT大学付属病院で、「多剤耐性菌による院内感染が五十三名も発生、そのうち九名がその多剤耐性菌が原因で死亡」という事例が起りました。戦後、新しい抗生物質が次々に開発され、大抵の感染症は治療できるようになりました。しかし、抗生物質は長く使われているうちに、抗生物質に抵抗力を持つ、しぶと

い細菌が生き残り、繁殖するようになり、それが抗生物質の耐性菌ですが、今回のような多剤耐性菌は、数ある抗生物質の大半に耐性をもっていますので、多剤耐性菌と呼ばれるわけです。既存のほとんどの抗生物質が効かないとなると、治療の方法がなくなってしまふのですからこれは大変です。人間は、また苦勞してその耐性菌に対する新しい抗生物質を探さなければなりません。

新型インフルエンザが大きな問題と

なっているのも、人間が持っているそれまでのインフルエンザに対する免疫では、退治できない新しいインフルエンザウイルスが生まれてきたからです。

まさに人間の知恵と病原菌との戦いです。感染症対策は、国家防衛対策です。国は、もつと感染症対策に予算を投じて、国民の安心、安全を守ってもらわねばなりません。

藤井 基之

- 生年月日 昭和 22 年 3 月 16 日
- 選挙区 参議院比例区
- 当選回数 2 回
- 出生地 岡山県岡山市
- 趣味 音楽・読書
- 個人ホームページ <http://www.mfujii.gr.jp/>
- その他 薬学博士・薬剤師
- 私の政治信条
私の政策の柱は A(エイジフリー)B(バリアフリー)D(ドラッグフリー:薬物乱用のない社会)社会創りです。
高齢者も、障害を持つ方も、国民誰もが安心して暮らし、元気で生活を送ることのできる長寿社会を創るために何が必要か、を政治活動の根底においています。
好きな言葉「昨日の夢は、今日の希望、そして明日の現実」
- 活動報告
参院議員厚生労働委員会理事として、食品安全確保のための食品衛生法改正、健康増進法改正、薬事法改正、薬剤師法改正、クリーニング業法改正、国民年金法改正等に関与。
- 経歴
昭和 37 年 岡山大学教育学部附属中学校卒業
昭和 40 年 岡山県立岡山操山高等学校卒業
昭和 44 年 東京大学薬学部薬学科卒業
昭和 44 年 厚生省入省
平成 9 年 厚生省退官
平成 9 年 財団法人 ヒューマンサイエンス 振興財団 専務理事
平成 12 年 日本薬剤師連盟 副会長
社団法人 日本薬剤師会 常務理事
平成 13 年 参議院議員 (1 期目)
平成 16 年 厚生労働大臣政務官 (平成 16 年 9 月~平成 17 年 11 月)
平成 19 年 日本薬剤師連盟 顧問
平成 22 年 参議院議員 (2 期目)
- その他
慶應義塾大学薬学部 客員教授
昭和大学薬学部 客員教授
東邦大学薬学部 客員教授
新潟薬科大学 客員教授
京都薬科大学 客員教授
近畿大学薬学部 客員教授
千葉大学薬学部 非常勤講師